

適切かつ効率的な感染対策

令和5年4月
栃木県保健福祉部感染症対策課



参考資料

- **医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド(第5版)**
(2023.1 日本環境感染学会)
- **新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 診療の手引き・第9.0版**
(2023.2 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
- **診療所における効果的な感染対策の好事例の紹介**
(2022.11 日本プライマリ・ケア連合学会)

新型コロナウイルス感染症の患者・疑い患者診察時の个人防护具の選択について

防護具	場面
サージカルマスク	常に着用
ゴーグル・フェイスシールド	飛沫曝露のリスクがある場合 (患者がマスク着用できない、近距離の処置、検体採取時など)
手袋とガウン	患者や患者周囲の汚染箇所に直接接触の可能性が ある場合
N95マスク	エアロゾル発生手技を実施する場合や激しい咳・大きな声を出す患者に対応する場合

(参考)

表2 COVID-19 確定患者に対する様々な状況における PPE の選択

	サージカルマスク	N95 マスク	手袋	ガウン	眼の防護
診察(飛沫曝露リスク大 ^{注1)}	○	△	△	△	○
診察(飛沫曝露リスク小 ^{注2)}	○	△	△	△	△
呼吸器検体採取	○	△	○	△	○
エアロゾル産生手技		○	○	○	○
環境整備	○	△	○	△	△
リネン交換	○	△	○	○	○
患者搬送 ^{注3)}	○	△	△	△	△

○:必ず使用する △:状況により使用する

注1) 飛沫リスク大:患者がマスクの着用ができない、近い距離での処置など、顔面への飛沫曝露のリスクが高い。

注2) 飛沫リスク小:患者はマスクを着用し、顔面への飛沫曝露のリスクは高くない。

注3) 患者搬送:直接患者に触れない業務(ドライバーなど)ではガウンは不要です。

着衣



①手指衛生を行う。



②エアロゾル産生手技を行う場合は、サージカルマスクの代わりにN95マスクを装着し、ユーザーシールチェックを実施する。

【ユーザーシールチェック】

N95マスクと顔の間に隙間がないことを確認するために、マスクの上に手を置き、息を強く吐き出す。このときマスク内で圧が高まる感じがあればよい。呼気弁付きN95マスク(右)を使用する場合は、息を大きく吸い込み、マスクがかかるく凹む感じがあればよい。なお、呼気弁付きマスクはマスクから出ていく飛沫を抑える効果はないため、COVID-19の確定診断を受けていない人がいる場所では、上からサージカルマスクを着用する必要がある。



③ゴーグルまたはフェイスシールド、キャップの順に着用する。キャップの中に髪を入れる。



④覆われていない部分が最小となるようにガウンを着用し、手袋でガウンの袖を覆う。

シューズカバーは不要

※キャップは髪を直接触らない場合は不要

※手袋とガウンは、患者および患者周囲の汚染箇所に直接接触しない場合は不要

脱衣



①ガウンの表面をつかみ、首の後ろ部分をちぎって前方にたらす。



②袖から手袋の順に、表側が中になるようにゆっくりとガウンと手袋を取り外す。



④ガウンを中表にしながらかさくまとめて、ペール容器に廃棄する。



③ガウンの内側を持ち、前方に押し出すようにして、腰の部分をちぎる。



手指消毒はポイントごとに

- ・脱衣開始前
- ・ガウンやキャップなど防護具を外した後



⑤顔の粘膜汚染を防ぐために、ここで必ず手指衛生を行う。



⑥キャップ(頭頂部あたりを持つ)▶ゴーグル/フェイスシールド(柄/バンドの部分を持つ)▶マスク(ゴムを持つ)の順に取り外す。ゴーグル/フェイスシールドはあとで消毒するので、所定の場所に置く。



⑦手指消毒を行う。



⑧手袋をつけてゴーグル/フェイスシールドをアルコール綿で消毒する。

病原体への曝露を防ぐために、個人防護具の着脱は、丁寧に、時間をかけて行うことが重要です。慣れないうちは鏡を見ながら行うか、第三者に確認してもらうとよいでしょう。

例1：（例2の場合以外の場合）

サージカルマスク、フェイスシールド、手袋を基本とし、
ガウンは必要時のみ（下記参照）装着する。
交換すべき場合は以下のとおり。



マスク、フェイスシールドは、汚染※した場合や勤務終了時などに交換

手袋は患者毎に交換

ガウンは、手以外の部位が患者に直接接触することが見込まれる場合や、大量の飛沫の曝露が見込まれる場合のみ装着し、その都度交換する。

※1：大量の飛沫への曝露、患者に直接接触した場合など

例2：小児の診療など、大量の飛沫への曝露や患者への直接の接触があるか予想できない場合

サージカルマスク、フェイスシールド、手袋を基本とした上で
ガウンも常時装着し、汚染※した場合のみ交換する。
交換すべき場合は以下のとおり。



マスク、フェイスシールドは、汚染※1した場合や勤務終了時などに交換

手袋は患者毎に交換

ガウンは、診療の最初から装着し、汚染※1した場合のみ交換する。

診療所における効果的な感染対策の好事例の紹介(日本プライマリ・ケア連合学会)

1. 待合の工夫例

自家用車で来院している患者は車中で待機

2. 診察、検体採取時の工夫例

- パーティションによる簡易な分離、空き部屋等の活用
- 検体採取を屋外や駐車場の車中で実施
- 発熱患者の動線を分離(矢印等でわかりやすく表示)

3. 上記の空間的分離が構造的に困難な場合は時間的分離で対応

その他

- ・新型コロナウイルス感染症を疑う症状がみられる患者に対し、受診方法を医療機関ホームページや入口付近に掲示物等で案内する
受診方法：受付の場所、事前連絡の必要性や方法など
- ・病歴や背景情報について、事前に電話やWEB問診で情報収集する
- ・オンラインで診療、説明などを行う
- ・患者や医療従事者が頻繁に手で触れる場所(高頻度接触面)を清掃、消毒することは有用な感染対策になる
方法：ドアノブ、手すり、スイッチ、蛇口などの高頻度接触面を1日数回程度、消毒剤で拭き取り清掃する